



Buddycom コンソール
ユーザーガイド v1.0.14
企業間通信・設定編



改訂履歴

日付	バージョン	内容
2019/10/01	1.0.0	製品名称変更
2019/11/14	1.0.1	企業間通信 制限追記
2020/9/29	1.0.2	企業間通信 制限変更
2020/11/09	1.0.3	2段階認証 追記
2020/11/27	1.0.4	IP アドレス制限 追記
2021/8/12	1.0.5	E2E 暗号化 追記 クライアント設定項目 追記
2021/11/26	1.0.6	音声テキスト化の辞書登録 追記
2022/5/19	1.0.7	クライアント設定項目 追記
2022/11/18	1.0.8	企業間通信の機能制限 追記と修正 個別通話のテキスト化・翻訳エンジンの変更 追記
2024/9/12	1.0.9	ヘルプ設定 追加
2024/9/20	1.0.10	端末管理 追加
2024/11/26	1.0.11	Buddycom コンソールの2段階認証 追加
2024/12/16	1.0.12	アプリ制御 追加
2025/2/25	1.0.13	クライアント設定 追記
2025/6/6	1.0.14	辞書登録 追記 個別通話設定項目 追記と修正 クライアント設定 追記

目次

1	概要.....	5
2	企業間通信.....	6
2.1	使用できるテナント.....	6
2.2	使用を許可するテナント.....	7
2.3	企業間通信の追加.....	8
2.3.1	権限の確認.....	8
2.3.2	企業間通信の追加.....	9
2.4	連携したテナントのユーザーの利用.....	11
2.4.1	他テナントのユーザーを自テナントのグループに追加.....	11
2.4.2	ユーザーの使用状況の確認.....	13
2.5	企業間通信の解除.....	14
2.5.1	企業間通信の設定で利用できるユーザーを削除.....	14
2.5.2	企業間通信の連携を解除.....	14
2.6	企業間通信の機能制限.....	15
3	IP アドレス制限.....	16
3.1	IP アドレス制限の利用設定.....	16
3.2	IP アドレス制限の解除方法.....	17
3.3	IP アドレス制限の変更/削除方法.....	17
4	音声テキスト化の拡張設定.....	18
4.1	辞書登録.....	18
4.1.1	辞書の登録方法.....	18
4.1.2	CSV インポート.....	21
4.1.3	辞書登録の権限ユーザー.....	23
4.1.4	辞書登録の注意点.....	24
5	2 段階認証.....	25

5.1	アプリの2段階認証.....	25
5.1.1	アプリの2段階認証の利用設定.....	25
5.1.2	認証コードの通知方法の設定.....	26
5.1.3	2段階認証の通知.....	28
5.2	Buddycom コンソールの2段階認証.....	29
5.2.1	Buddycom コンソールの2段階認証の利用設定.....	29
5.2.2	認証コードの通知方法の設定（ログイン画面）.....	30
5.2.3	認証コードの通知方法の設定（Buddycom コンソール）.....	31
5.2.4	2段階認証の通知.....	33
5.2.5	Buddycom コンソールの2段階認証設定の確認と初期化.....	33
6	端末管理.....	35
6.1	端末管理の利用設定.....	35
6.2	端末IDの登録方法.....	36
6.3	端末IDの削除方法.....	37
6.4	端末IDの検索項目.....	38
6.5	端末管理の注意事項.....	38
7	E2E 暗号化.....	39
7.1	E2E 暗号化の設定.....	39
7.2	クライアント (Buddycom アプリ) のパスワード入力.....	40
7.3	パスワードの変更.....	41
7.3.1	全グループ/個別通話のパスワード変更.....	41
7.3.2	指定のグループのパスワード変更.....	42
7.4	E2E 暗号化の制限事項/注意事項.....	42
8	個別通話設定.....	43
8.1	音声データの保存.....	43
8.2	音声テキスト化・翻訳.....	43

8.2.1	個別通話の音声テキスト化・翻訳エンジンの変更の注意点	44
8.3	自動終了時間設定	45
9	ヘルプ設定	46
9.1	ヘルプ設定の編集	46
9.1.1	「設定内容」について	46
9.1.2	「表示内容」について	47
9.2	ヘルプ設定の制限事項/注意事項	47
10	アプリ制御	48
10.1	接続済みユーザー数の取得	48
10.2	一斉停止	49
10.3	一斉起動	50
11	クライアント設定	52
11.1	クライアント設定の追加	52
11.2	クライアント設定の内容確認・編集	52
11.3	クライアント設定の削除	53
11.4	クライアント設定の割当て	54

1 概要

「設定」画面では、下記の操作を行います。

- ✓ 企業間通信
異なるテナントのユーザーとグループ通話をする機能の設定をします。
- ✓ SAML 認証設定
アプリへの SAML ログイン設定をします。Buddycom コンソールのマニュアルをご参照ください。
- ✓ IP アドレス制限
Buddycom コンソールログイン時の IP アドレスを制限する設定をします。
- ✓ AI・アプリ連携
他の AI やアプリサービスとの連携設定をします。Buddycom コンソールのマニュアルをご参照ください。
- ✓ 音声テキスト化の拡張設定
音声テキスト化時の辞書登録の設定をします。
- ✓ 2 段階認証の設定
アプリ、Buddycom コンソールログイン時の 2 段階認証の設定をします。
- ✓ 端末管理
アプリにログインする端末を制限する設定をします。
- ✓ E2E 暗号化
アプリを E2E 暗号化で使用する設定をします。
- ✓ 個別通話設定
個別通話に関する設定をします。
- ✓ ヘルプ設定
アプリに表示するヘルプの内容を設定します。
- ✓ クライアント設定
テナント内の全ユーザーのアプリ設定を一括管理します。



2 企業間通信

企業間通信を設定すると、自分のテナントのグループに他の企業（テナント）のユーザーを追加してグループ通話できます。

企業間通信では、通信する相手のテナントを「使用できるテナント」、または「使用を許可するテナント」として管理します。通信相手のテナントとの接続は、相手側のテナントにより承認されることで成立します。

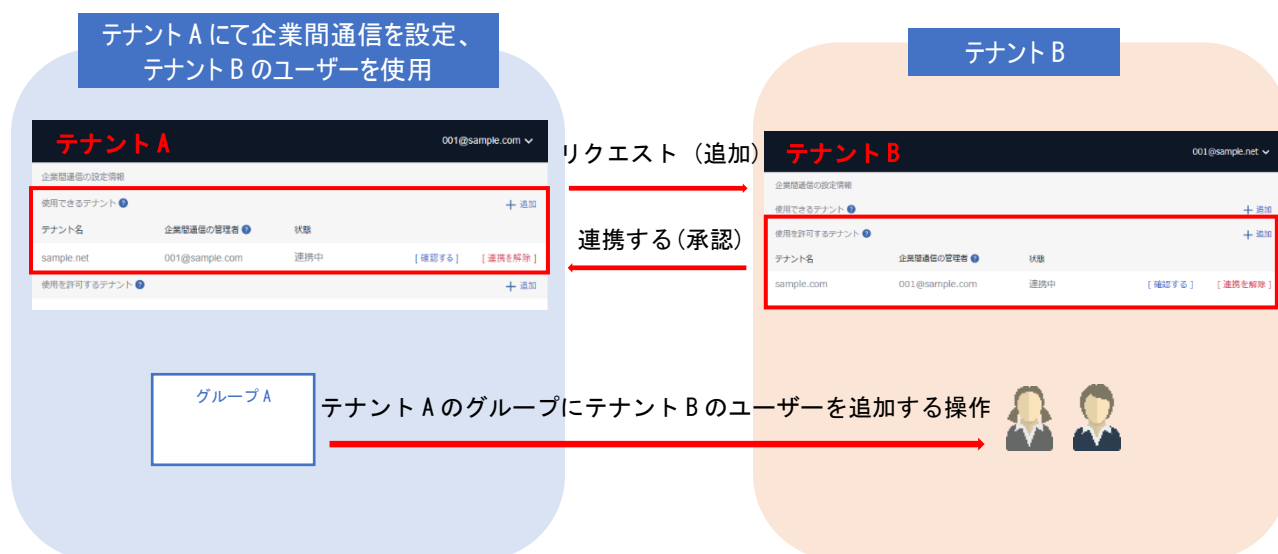
- ✓ 使用できるテナント: 自分のテナントのグループに追加したいユーザーが属するテナントを追加します。
- ✓ 使用を許可するテナント: 自分のテナントのユーザーの利用を許可する相手のテナントを追加します。
※使用を許可するテナントでは、ユーザーが参加するグループの一覧から、相手のテナントのグループを外すことはできません。

企業間通信の設定を行ったユーザーが「企業間通信の管理者」となります。企業間通信で接続した他テナントのユーザーの自分のテナントのグループへの追加・削除ができるのは、「企業間通信の管理者」のみです。

2.1 使用できるテナント

自分のテナントの通話グループに追加したいユーザーが属するテナントを設定します。

例)テナント A のグループにテナント B のユーザーを追加したい場合、テナント A の「使用できるテナント」としてテナント B を設定します。



連携中の画面情報



- ①テナント名: 表示されているテナントのユーザーを自テナントのグループに追加することができます。
- ②企業間通信の管理者: 企業間通信の設定、また、連携中のテナントのユーザーを自テナントのグループに追加する操作ができるユーザーです。
- ③状態: 企業間通信の接続状態が表示されます。
- ④連携・確認操作 (状態によって表示される操作コマンドが異なります)

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	—	—
未連携(リクエスト受信済)	連携する	企業間連携を承認します
連携中	確認する	連携中のテナントのユーザー利用状況を確認します

⑤連携解除・削除操作

※連携中のユーザーを利用している際は、利用設定の削除をしてから連携の解除を行います。

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	削除する	リクエストを取り下げます
未連携(リクエスト受信済)	削除する	リクエストを拒否します
連携中	連携を解除	企業間連携を解除します

2.2 使用を許可するテナント

自分のテナントのユーザーを、グループに追加することを許可するテナントを設定します。

例) テナント A のユーザーをテナント B のグループへの追加を許可したい場合、テナント A の「使用を許可するテナント」として、テナント B を設定します。



連携中の画面情報



⑥テナント名:テナント(B)のユーザーを他テナント(A)にて利用します。

⑦企業間通信の管理者:企業間通信の設定、また、連携中のテナントのグループに自テナントのユーザーを追加する操作を許可しているユーザーです。

⑧状態:企業間通信の接続状態が表示されます。

⑨ 連携・確認操作 (状態によって表示される操作コマンドが異なります)

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	—	—
未連携(リクエスト受信済)	連携する	企業間連携を承認します
連携中	確認する	連携中のテナントのユーザー利用状況を確認します

⑩連携解除・削除操作

※連携中のテナントにて、ユーザーが利用されている際は、連携の解除ができません。解除したいテナントの管理者ユーザーに連携の解除を依頼してください。

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	削除する	リクエストを取り下げます
未連携(リクエスト受信済)	削除する	リクエストを拒否します
連携中	連携を解除	企業間連携を解除します

2.3 企業間通信の追加

2.3.1 権限の確認

企業間通信の管理者(設定を行うユーザー)がコンソール権限のテナント管理権限を持っていることを確認してください。(設定方法は、「[2.5.1 コンソール権限](#)」をご参照ください。)



2.3.2 企業間通信の追加

「使用できるテナント」または「使用を許可するテナント」にテナントを追加します。



「+追加」をクリックするとテナント名の入力画面が表示されるので、企業間通信を行うテナント名を入力し、保存します。

※テナント名は、ログイン ID の@以降です。(例: 001@sample.net※赤字部分がテナント名です)

テナント名を追加後、状態が「未連携(リクエスト送信済)」となります。リクエストを送信したテナントの管理者に連携の承認を依頼してください。

※「削除する」をクリックすることで、リクエストを取り下げることができます。



リクエストを受信したテナントの設定タブに通知が表示されます。
「連携する」をクリックすると、企業間通信の接続が完了します。

buddycom Console

テナント B

001@sample.net

<

企業間通信のリクエストが1件あります。相手のテナントと連携してください。

設定

企業間通信

クライアント設定(オプション機能)

企業間通信の設定情報

使用できるテナント

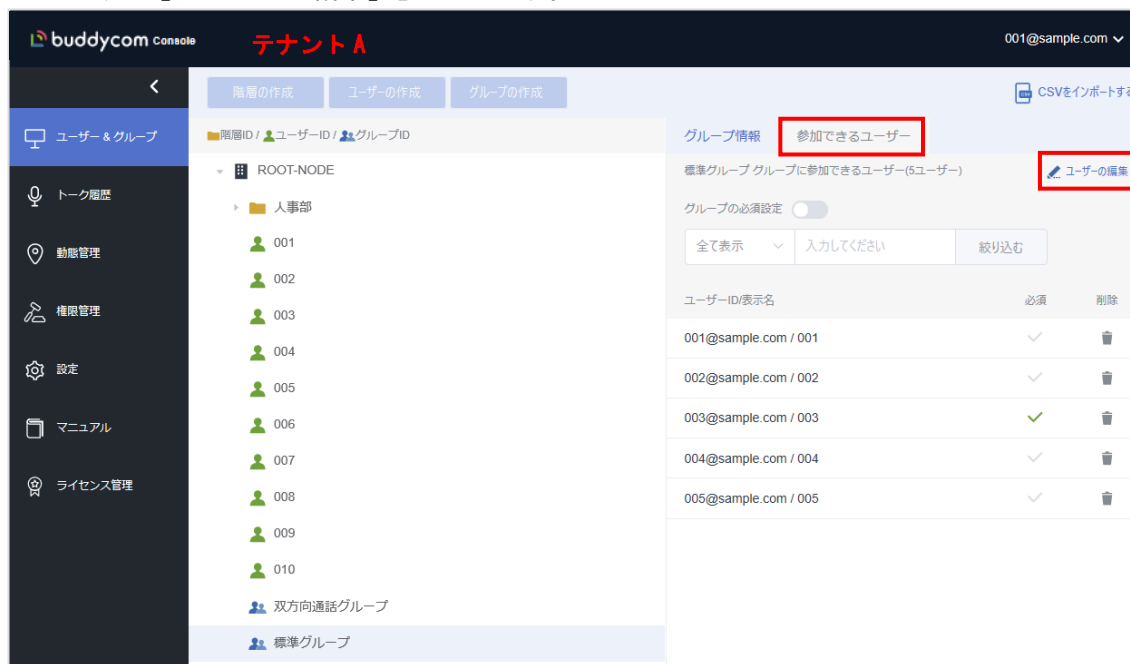
使用を許可するテナント

テナント名	企業間通信の管理者	状態		
sample.com	001@sample.com	未連携 (リクエスト受信済)	<div>連携する</div>	<div>削除する</div>

2.4 連携したテナントのユーザーの利用

2.4.1 他テナントのユーザーを自テナントのグループに追加

企業間通信にて、使用可能になった他テナントのユーザーを利用するグループをクリックし、「参加できるユーザー」タブの「ユーザーの追加」「ユーザーの編集」をクリックします。



自テナントの下に、連携したテナントのユーザー一覧が表示されます。
グループに追加したいユーザーを選択し、保存します。



※連携したテナントの階層の下に所属するユーザーを、自分のテナントのグループに追加する際は、ユーザーが所属するテナントの階層に、リンク管理者のユーザー権限を追加してもらう必要があります。

管理者ユーザーに権限を付与する階層を選択し、「企業間通信の設定ができるユーザーの追加」をクリックします。



階層を企業間通信の設定で利用できるユーザーの編集画面にて、階層下のユーザーの利用を許可するリンク管理者ユーザーを選択し、保存します。



企業間通信の設定にて階層の利用を許可したリンク管理者ユーザーにて、連携したテナントの階層下のユーザーを、自テナントのグループに追加します。



2.4.2 ユーザーの使用状況の確認

設定画面の企業間通信の設定より、「確認する」ボタンをクリックすることで、ユーザーの利用設定を行っているグループの一覧が表示されます。

The screenshot shows the Buddycom Console interface for 'テナント A' (Tenant A). The left sidebar contains navigation links: 'ユーザー & グループ' (Users & Groups), 'トーク履歴' (Chat History), and '動態管理' (Activity Management). The main content area is titled '設定' (Settings) and includes a sub-section for '企業間通信' (Inter-company communication). Below this, there is a table showing the status of inter-company communication for 'sample.net'. The table has columns for 'テナント名' (Tenant Name), '企業間通信の管理者' (Inter-company communication manager), and '状態' (Status). The status is '連携中' (In progress). A red box highlights the '確認する' (Confirm) button next to the status. Below the table, there is a section titled 'このテナントで利用しているsample.netのユーザー' (Users using sample.net in this tenant) which lists four users: 001, 002, 003, and A, all associated with '標準グループ' (Standard Group). At the bottom of the console, there are 'キャンセル' (Cancel) and 'OK' buttons.

テナント名	企業間通信の管理者	状態
sample.net	001@sample.com	連携中

このテナントで利用しているsample.netのユーザー

ユーザーID	参加しているグループ
001	標準グループ
002	標準グループ
003	標準グループ
A	標準グループ

2.5 企業間通信の解除

2.5.1 企業間通信の設定で利用できるユーザーを削除

ROO-NODE 以外の階層に追加した「企業間通信の設定で利用できるユーザー」を削除します。
※ROOT-NODE に設定されている「企業間通信の設定で利用できるユーザー」は、企業間通信の連携を解除すると自動的に削除されます。



2.5.2 企業間通信の連携を解除

企業間通信の設定画面の「連携を解除」をクリックします。利用しているユーザーの一覧が表示されます。
解除を続行する際は、「連携を解除」をクリックしてください。一覧に表示されているユーザーとグループの紐づけが解消され、リンクが解除されます。



連携が解除されると、状態が「未連携(リクエスト受信済)」に変化します。
「連携する」をクリックすると、再度企業間通信状態になります。
「削除する」をクリックすると、リクエストが削除されます。



※連携の解除後に、相手のテナントにて「削除する」をクリックした場合も、リクエストは削除されます。

※階層の権限を付与していたリンク管理者ユーザーの権限を削除せずに企業間通信を解除した際、連携の解除後に「不明なユーザー」と表示されます。「🗑」をクリックして削除してください。



2.6 企業間通信の機能制限

企業間通信には、以下の制限があります。

- ・他テナントのユーザーと個別通話を行うことはできません。(アプリ制限)
- ・他テナントのユーザーに対して、マップ通話を行うことはできません。(アプリ制限)
- ・他テナントのユーザーは動態管理画面に位置情報を表示することはできません。(管理コンソール制限)
- ・他テナントのユーザーを CSV のインポートにて追加/編集/削除することはできません。(管理コンソール制限)
 ※他テナントのユーザーを CSV のインポートにてグループへの追加/削除することは可能です。
- ・**他テナントのグループで発行された URL を利用してかんたんログインはできません。**(管理コンソール制限)
- ・オプション設定をしているグループには、オプションが割り当てられたユーザーのみ追加することができます。
- ・オプション従量は、通話しているグループが属しているテナントから従量を消費します。
- ・各ユーザーは所属しているテナントのクライアント設定が適用されます。

3 IP アドレス制限

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

このセクションでは、管理コンソールにログインする際にアクセスをする端末のグローバル IP アドレスを制限する場合の設定について説明します。※グローバル IP アドレスがご不明点な場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

3.1 IP アドレス制限の利用設定

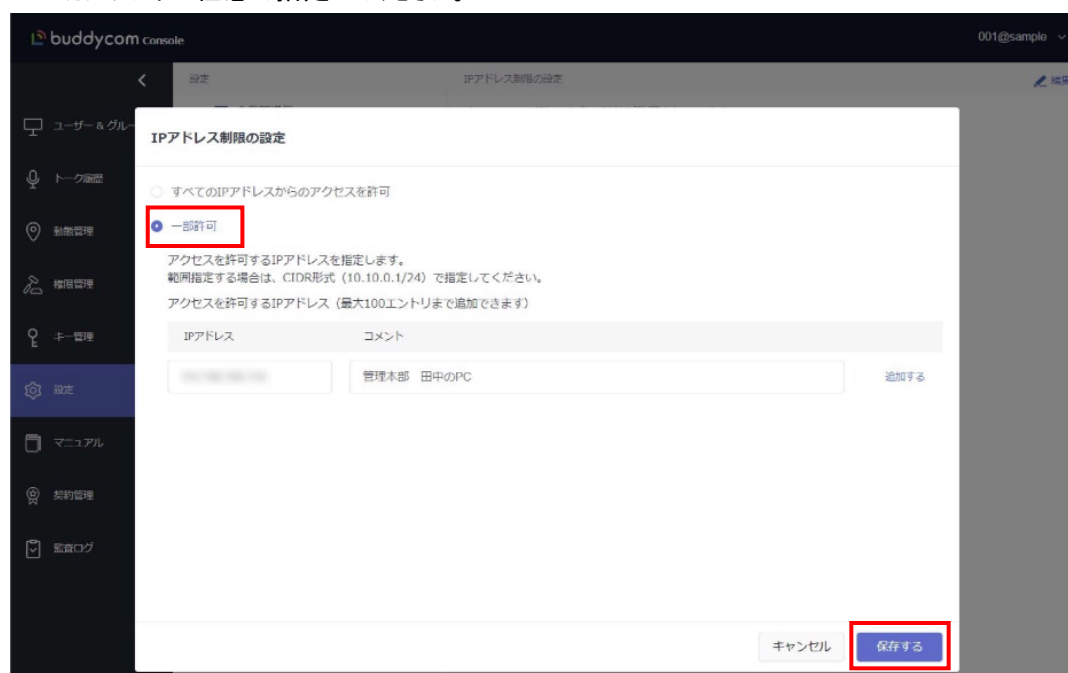
IP アドレス制限はデフォルトで「すべての IP アドレスからのアクセスを許可」設定になっているので、利用する場合は IP アドレスを登録する必要があります。

(1) IP アドレス制限の設定画面の「編集」をクリックします。



(2) 「一部許可」をクリックします。

(3) 登録する端末の IP アドレスを入力して「追加する」をクリックし、追加が出来たら「保存する」をクリックします。
※コメントは任意で指定してください。

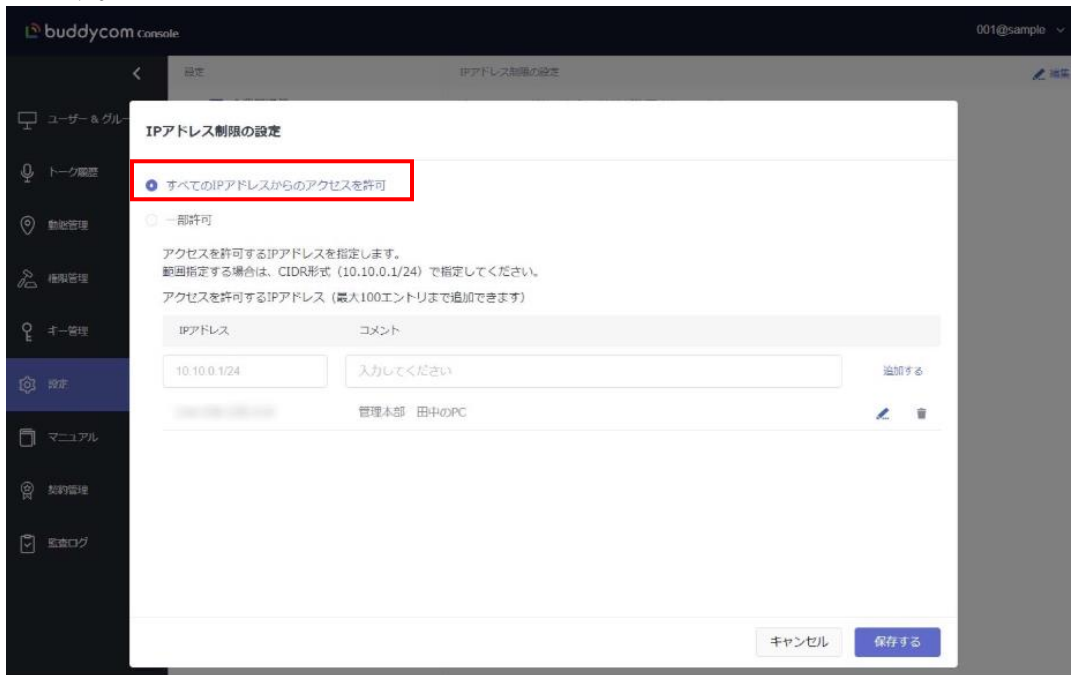


(4) IP アドレス制限の設定画面に登録した IP アドレスが表示されたら設定は完了です。





3.2 IP アドレス制限の解除方法

IP アドレスを登録後、「すべての IP アドレスからのアクセスを許可」を選択して保存すると、IP アドレスの制限を解除できます。



3.3 IP アドレス制限の変更/削除方法

「」編集ボタンをクリックし、変更後に「確定」をクリックすると、登録した IP アドレスの変更ができます。

「」削除ボタンをクリックすると、登録した IP アドレスの削除ができます。

4 音声テキスト化の拡張設定

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

4.1 辞書登録

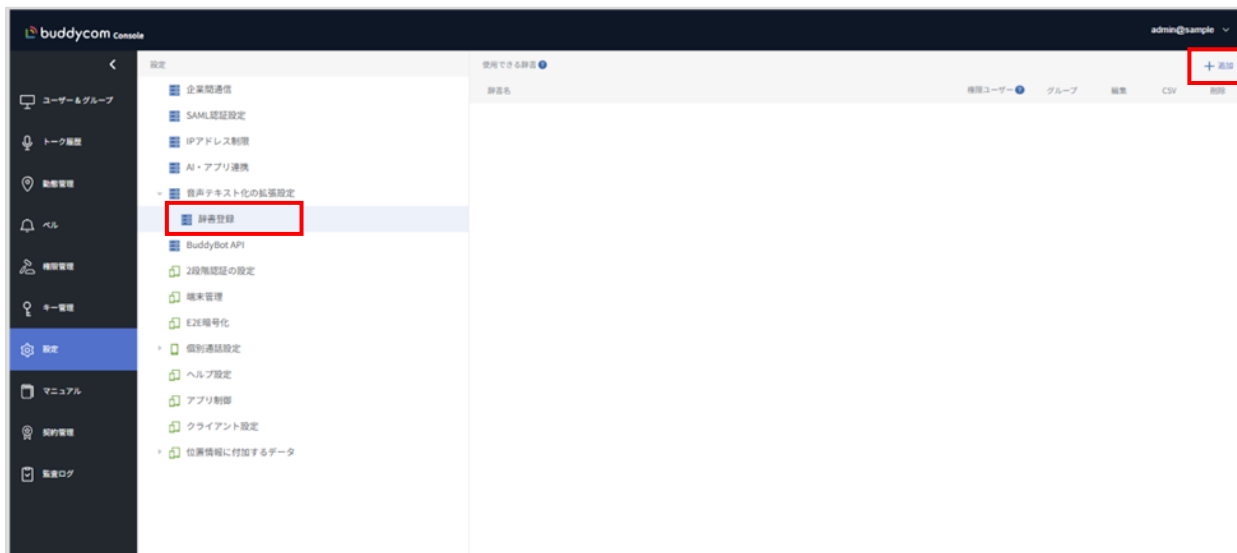
このセクションでは、音声テキスト化のテキスト化精度を向上するために、単語を辞書登録する設定について説明します。音声テキスト化の辞書登録機能は、テキスト化エンジンに「オート」または「AmiVoice」が設定されているグループでご利用いただけます。

以下のいずれかの設定をしている場合は辞書登録を行っても、音声テキスト化の辞書機能はご利用いただけません。

- ・テキスト化エンジンに「Azure Speech To Text」が設定されている
- ・テキスト化エンジンに「オート」が設定されていて、Buddycom アプリの「通話言語の切り替え」に、日本語以外の言語が設定されている


4.1.1 辞書の登録方法

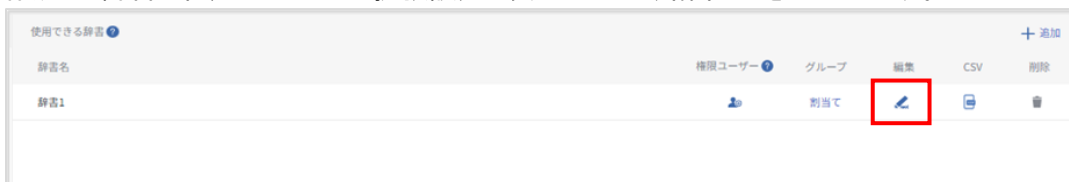
(1) 辞書登録画面の「追加」をクリックします。



(2) 任意の辞書名を入力して、「保存する」をクリックします。(辞書名は、追加した辞書の識別に利用します。)



(3) 作成した辞書が音声テキスト化の拡張設定に表示されたら、編集をクリックします。



(4) 単語を入力して「追加」・「保存する」をクリックします。入力項目の詳細は下表をご確認ください。

辞書の編集

辞書名

言語 読み テキスト カテゴリ

項目	説明
言語	登録する単語の言語を選択します。(日本語以外を選択することはできません)
読み	登録する単語の読み方を平仮名で入力します。
テキスト	テキスト化の結果として表記したいテキストを入力します。
カテゴリ	登録する単語に特に適合すると思われるものを選択します。 適合すると思われるものがない場合、「全般」を設定します。

カテゴリの活用例

音声データの文脈から、適したカテゴリを登録することで、以下のように、同じ読みで異なるテキストの辞書登録をした際に活用ができます。

事象登録内容

読み「サトウショウジ」テキスト「佐藤商事」カテゴリ「会社」

読み「サトウショウジ」テキスト「佐藤正二」カテゴリ「人名」

テキスト化結果

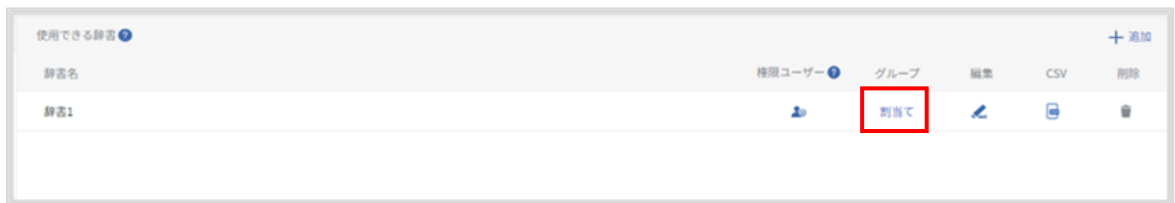
「佐藤正二さん対応をお願いします。」

「佐藤商事の田中さんがお呼びです。」

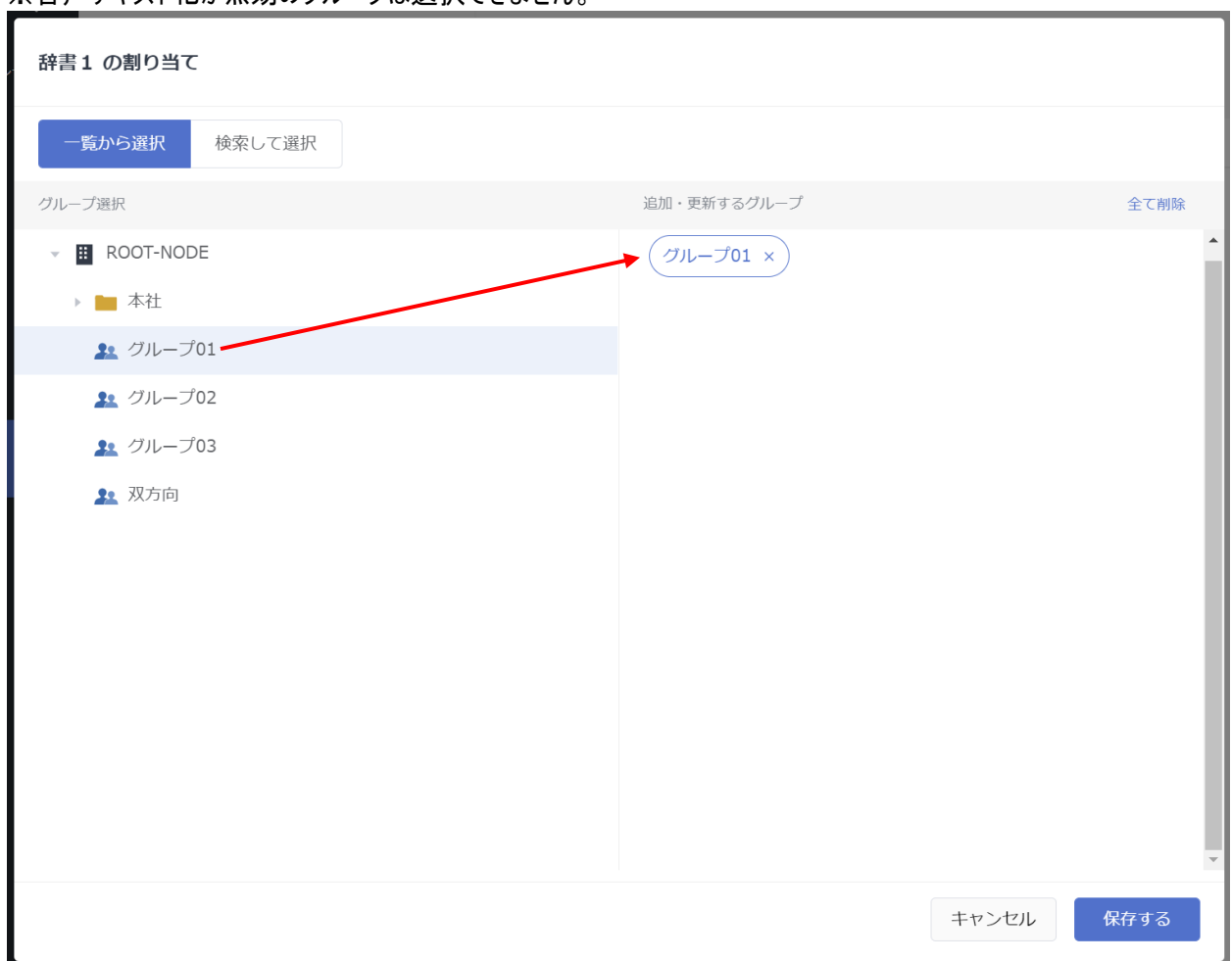
4.1.2 辞書のグループ割当て

登録した辞書をグループに割り当てることで、グループ通話のテキスト化に辞書が反映されます。

- (1) 割当てたい辞書の「割当て」をクリックします。



- (2) 辞書を適用したいグループを選択して、「保存する」をクリックします。
※音声テキスト化が無効のグループは選択できません。

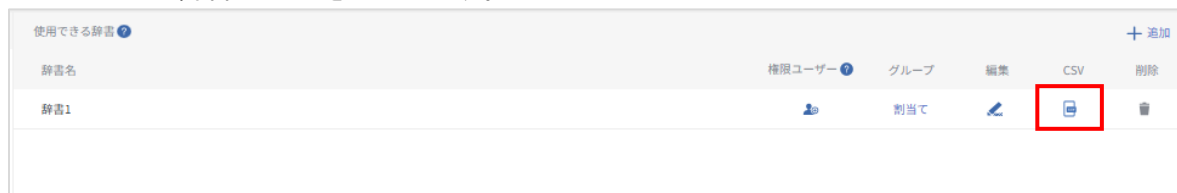


4.1.3 CSV インポート

CSV ファイルをアップロードすることで、辞書に登録している単語を一括管理することが可能です。CSV インポートする場合は、必ず CSV のテンプレートをダウンロードして利用してください。

※CSV を使用した単語の登録時、辞書の内容はすべて上書きされます。既に登録済みの単語がある場合は、削除せずに続きから編集し、インポートを行ってください。

- (1) インポートしたい辞書の CSV をクリックします。

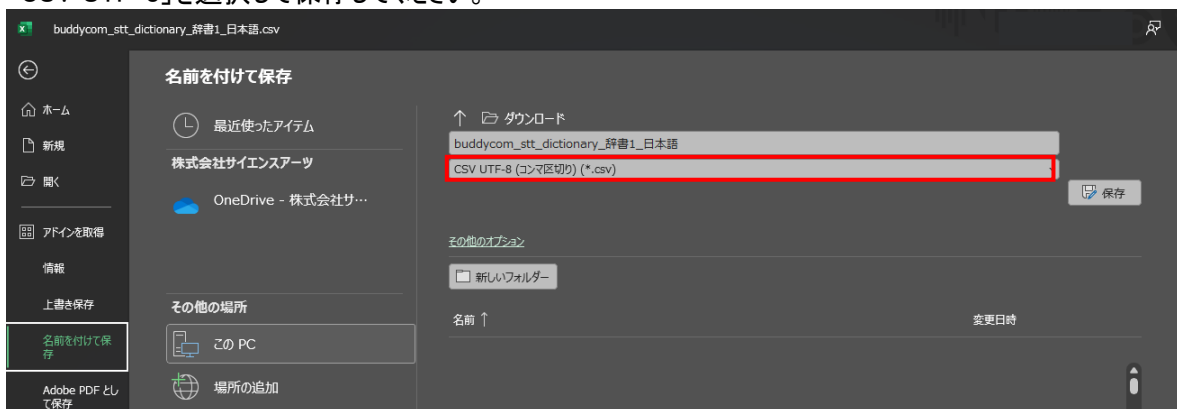


- (2) CSV のインポート/エクスポート画面の「エクスポートする」ボタンをクリックします。



- (3) エクスポートした CSV ファイルを編集します。読み、テキスト、カテゴリの順で記載します。記載方法の詳細はテンプレート内のテキストをご確認ください。

Excel (バージョンが 2016 以降) でこのファイルを開いて編集後に保存するときは、「名前を付けて保存」で「CSV UTF-8」を選択して保存してください。



※Excel (バージョンが 2016 より古い) では、このファイルを開いて編集・保存した後、別のツールで UTF-8 に変更する必要があります。メモ帳で変更する場合、作成した CSV ファイルをメモ帳で開き、「名前を付けて保

存」でファイルの種類「すべてのファイル」を選択し、文字コード「UTF-8」を選択して保存してください。

- (4) CSV ファイルのインポート/エクスポート画面で「選択する」ボタンをクリックし、編集した CSV ファイルを選択します。「CSV をインポートする」ボタンを押下してインポートを行います。



- (5) インポートが成功すると、「n 件のインポートが完了しました」というメッセージが表示されます。
- (6) インポートに失敗した場合、エラーログが出力されます。「エラーログをダウンロードする」ボタンをクリックしてエラーログをダウンロードしてください。エラーメッセージとその意味は下表の通りです。



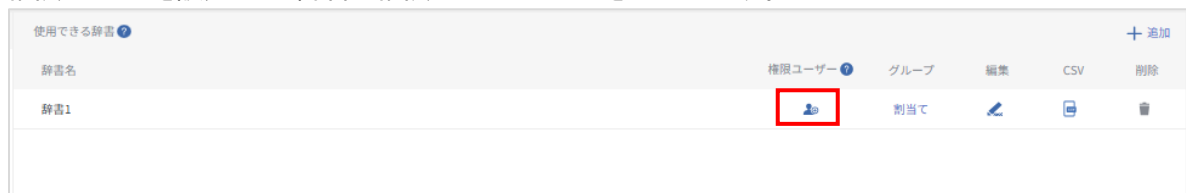
エラーメッセージ	意味
適切な CSV フォーマットではありません。	CSV 形式が適切ではありません。
項目数が正しくありません。	項目数が 3 つより多く入力されています。
未入力です。	必須項目の値が空白になっています。
不正な値です。	選択式の項目 (カテゴリ) で選択肢外の値が入力されています。
文字数は 50 字以内です。	読み、テキストの入力文字数が 50 文字を超えています。
全角半角スペースおよび記号「\$ 」は使用できません。	読み、テキストに許可されていない文字が含まれています。

4.1.4 辞書登録の権限ユーザー

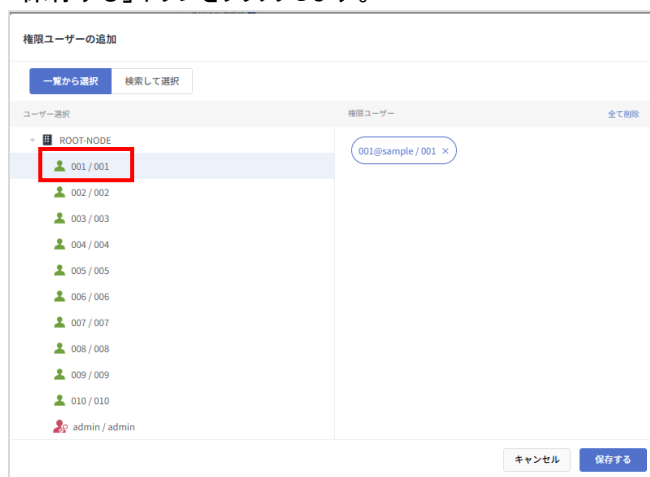
登録済みの辞書に編集権限を持つユーザー（以下、権限ユーザーといいます）を割り当てることができます。権限ユーザーは辞書の編集（単語の追加、変更、削除）だけ行えるユーザーで、テナント管理者が実行できる操作との違いは下表の通りです。

	テナント管理者	辞書の権限ユーザー
辞書の新規作成	○	×
辞書の編集	○	○
辞書の CSV インポート	○	○
辞書のグループ割当て	○	×
辞書の削除	○	×
権限ユーザーの編集	○	×

- (1) 権限ユーザーを設定したい辞書の権限ユーザーアイコンをクリックします。



- (2) 権限ユーザーにしたいユーザーを左の欄から選択してクリックします。選択したユーザーが右に表示されるため、「保存する」ボタンをクリックします。



- (3) 権限ユーザーから外す場合は編集画面右の欄、選択中のユーザーの「×」ボタンを押下し、権限ユーザー欄から削除した後「保存する」ボタンを押下します。

4.1.5 辞書登録の注意点

- ・テキスト化エンジンに Azure Speech To Text を設定している場合と、テキスト化エンジンにオートを設定しているかつ Buddycom アプリの「通話言語の切り替え」言語が日本語以外の場合は音声テキスト化の辞書登録機能は利用できません。
- ・1 テナントで作成できる辞書の最大数は 20 件です。
- ・1 辞書内の言語ごとの単語の最大数は 600 件です。
- ・1 グループに対して割り当てが可能な辞書は 1 つです。
- ・1 辞書に登録できる権限ユーザーの数は 10 名までです。
- ・辞書登録は個別通話のテキスト化には適用されません。

5 2 段階認証

このセクションでは、iOS と Android の Buddycom アプリ、及び Buddycom コンソールでログインする際に、2 段階認証をする場合の設定について説明します。

2 段階認証を使用すると、Buddycom アプリ、Buddycom コンソールで ID とパスワードの入力を行った後に、所定の方法で通知される認証コードを入力することでログインが完了します。

※2 段階認証を使用する場合、認証コードの通知方法が設定されていないユーザーはログインができないので、ご注意ください。

5.1 アプリの 2 段階認証

5.1.1 アプリの 2 段階認証の利用設定

アプリの 2 段階認証はデフォルトで「利用しない」設定になっているので、利用する場合は 2 段階認証機能を有効にする必要があります。

(1) 2 段階認証の設定画面の「編集」をクリックします。



(2) アプリの 2 段階認証を ON にして「保存する」をクリックします。



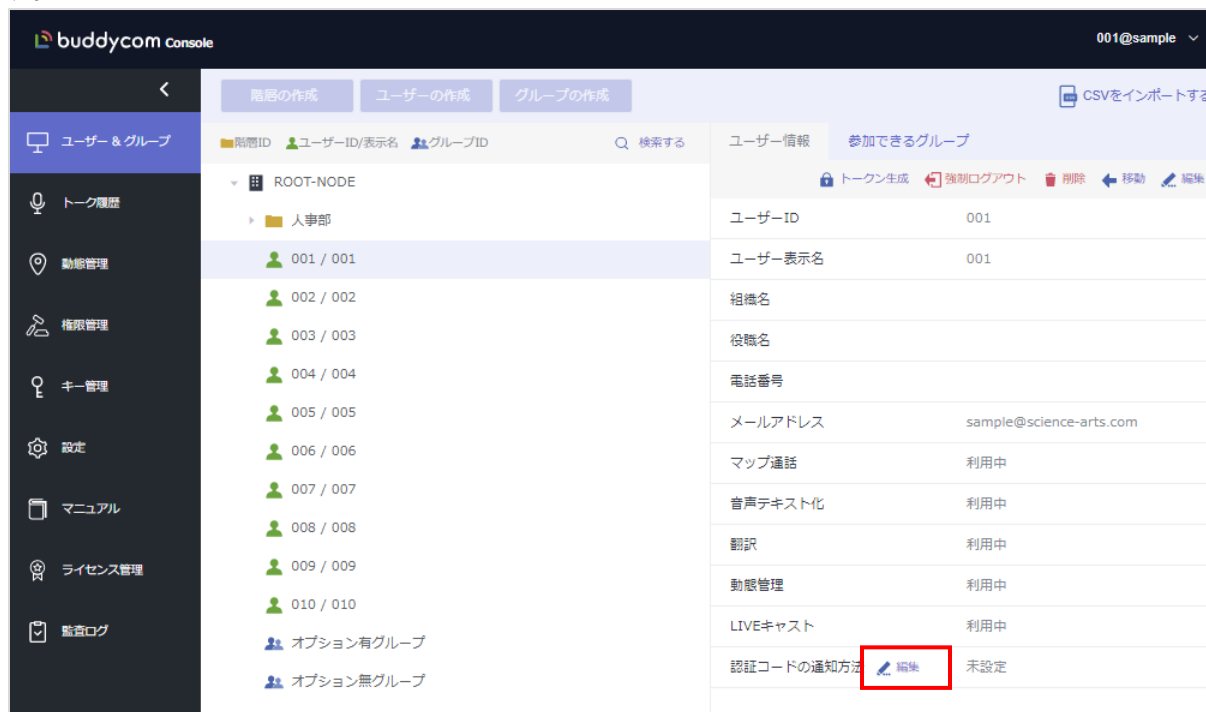
5.1.2 認証コードの通知方法の設定

2段階認証の認証コードの通知方法は、以下のいずれかの方法で設定します。

- ・ユーザーの情報画面で設定…ユーザー毎に2段階認証の通知方法を設定します。
- ・階層の情報画面で設定…階層に所属する全ユーザーに、共通の認証コードの通知方法を設定します。

・ユーザーの情報画面での設定方法

認証コードの通知設定を行うユーザーを選択し、画面右側の「認証コードの通知方法」の編集ボタンをクリックします。



認証コードの通知方法を編集します。通知方法については、表 6.1.2-1 を参照ください。

表 6.1.2-1 認証コードの通知方法

設定	認証コードが通知される方法
Email	メールアドレス欄(*1)に設定したメールアドレス宛に通知をします
管理コンソールに表示	管理コンソールの2段階認証の設定画面で認証コードを表示します。
未設定	既定の設定です。2段階認証を使用する場合、「未設定」のユーザーはBuddycomアプリにログインできません。

*1) メールアドレス欄の設定について

「ユーザー」の登録情報を選択した場合、ユーザー情報に登録されているメールアドレス宛に通知します。

ユーザー情報に登録されているメールアドレスとは別のメールアドレスに通知したい場合は、通知先としたいメールアドレスを入力してください。



・階層の情報画面での設定方法

ユーザーが属する階層で通知方法を設定して、同じ階層に属するユーザーへの通知方法を一括して設定できます。階層で通知方法を設定する場合は、設定したい階層を選択して、画面右側の「認証コードの通知方法の設定」ボタンをクリックします。



通知方法の設定は、ユーザーの情報画面での設定と同じです(表 6. 1. 2-1 参照)。なお、階層への設定の場合、「サブ階層を含める」をONにすると、設定した階層下のすべての階層のユーザーにも同じ設定が適用されます。



5.1.3 2段階認証の通知

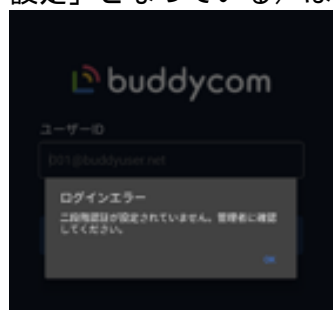
Buddycom アプリのログイン画面にてユーザーID、パスワードを入力すると、下記の画面のような認証コードの入力画面が表示されます。「6.1.2 認証コードの通知方法の設定」で設定した通知方法で通知される認証コードを入力してください。



認証コードの通知方法として、「管理コンソールに表示」を選択した場合は、管理コンソールの「設定」メニューの「2段階認証の設定」で、「認証コードの表示」をクリックして認証コードを表示してください。



認証コードが誤っている場合や、認証コードの通知方法の設定が行われていない場合（「未設定」となっている）は、Buddycom アプリにログインできません。



5.2 Buddycom コンソールの 2 段階認証

5.2.1 Buddycom コンソールの 2 段階認証の利用設定

Buddycom コンソールの 2 段階認証はデフォルトで「利用しない」になっているので、利用する場合は 2 段階認証機能を有効にする必要があります。

(1) 2 段階認証の設定画面の「編集」をクリックします。



(2) Buddycom コンソールの 2 段階認証を ON にして「保存する」をクリックします。



5.2.2 認証コードの通知方法の設定（ログイン画面）

2段階認証の認証コードの通知方法は、2段階認証設定後の初回ログイン時に設定することができます。

- (1) Buddycom コンソールのログイン画面からユーザーID、パスワードを入力してログインします。



- (2) 2段階認証の設定画面が表示されます。認証コードの通知方法を選択して設定を行います。通知方法は表 6.2.2-1 を参照してください。



表 6. 2. 2-1 認証コードの通知方法

設定	認証コードが通知される方法
メール認証	<p>メールアドレス欄に設定したメールアドレス宛に通知を行います。</p> <p>(1) メール認証を選択し、メールアドレス欄に通知先のメールアドレスを入力します。</p> <p>(2) 「認証する」ボタンを押下するとメールアドレスに認証コードが送付されます。</p> <p>(3) 10 分以内に認証コードを入力することで認証が完了します。</p> 
アプリ認証	<p>Google Authenticator の認証アプリを使用して認証コードの生成を行います。アプリ認証を行う際には、「App Store」もしくは「Google Play」より、Google Authenticator アプリのインストールをお願いします。</p> <p>App Store : Google Authenticator GooglePlay : Google Authenticator</p> <p>(1) アプリ認証を選択し、「認証する」ボタンを押下します。</p> <p>(2) QR コードが表示されるため、Google Authenticator アプリで QR コードを読み込みます。</p> <p>(3) Buddycom のログイン ID 名で認証コードが生成されるため、有効時間内に認証コードを入力します。</p> 

5.2.3 認証コードの通知方法の設定（Buddycom コンソール）

2 段階認証の認証コード通知方法は Buddycom コンソールで設定、変更することができます。

(1) Buddycom コンソールにログインします。

※Buddycom コンソールの 2 段階認証設定後、初回ログイン時は 2 段階認証の設定を求められます。6. 2. 2 を参照して 2 段階認証設定を行ってログインしてください。

(2) 画面右上のログイン ID 横の下三角を押下し、「2 段階認証の設定」を押下します。



(3) 2 段階認証の設定画面では、現在設定している 2 段階認証の認証コードの通知方法が表示されます（設定を行っていない場合は「未設定」と表示されます。）この通知方法を変更する場合は、編集ボタンを押下します。



(4) 2 段階認証の設定画面が表示されます。認証コードの通知方法を選択して設定を行います。通知方法は表 6.2.2-1 を参照してください。設定済みのメールアドレスやアプリ認証を変更する場合も、こちらの画面から認証コードの通知方法を選択し、再設定することができます。



5.2.4 2段階認証の通知

2段階認証の通知設定後、Buddycom コンソールのログイン画面にてユーザーID、パスワードを入力すると、認証コード入力画面が表示されます。メールに送付される、あるいは Google Authenticator で生成される認証コードを入力してください。

メール認証はメール受信から 10 分以内、Google Authenticator は有効期限内に認証コードを入力してください。

The left screenshot displays the following text: "buddycom 確認コードを入力してください。", "確認コードをチェックする間は、このページを開いたままにしておいてください。", "メールが届かない場合は、迷惑フォルダを確認してみてください。", "キャリアメールをご利用の方は「science-arts.com」からメールを受信出来るよう設定をお願いいたします。", a "確認コードの再送信" button, a 6-digit input field, a "認証できない方はこちら >" link, and a "戻る" button.

The right screenshot displays the following text: "buddycom 確認コードを入力してください。", "お使いの端末からGoogle Authenticatorを起動して、コードを確認ください。", "確認コードをチェックする間は、このページを開いたままにしておいてください", a 6-digit input field, a "認証できない方はこちら >" link, and a "戻る" button.

認証コードが誤っている場合や、認証コードの通知方法の設定が行われていない場合（「未設定」となっている）は、Buddycom アプリにログインできません。

5.2.5 Buddycom コンソールの 2 段階認証設定の確認と初期化

テナント管理者は他ユーザーの 2 段階認証設定状況を確認し、初期化することができます。

- (1) テナント管理者権限を持ったユーザーで Buddycom コンソールにログインし、2 段階認証の設定画面を表示します。「Buddycom コンソール 2 段階認証設定ユーザーの検索・編集」ボタンを押下します。

The screenshot shows the '2段階認証の設定' page. The left sidebar contains navigation items: ユーザー & グループ, トーク履歴, 動態管理, ベル, 機能管理, キー管理, 設定 (selected), and マニュアル. The main content area has the following text: "BuddycomアプリやBuddycomコンソールにログインする際の2段階認証を設定することができます。", "IDとパスワードの入力完了後、認証コードが所定の方法で通知され、その認証コードを入力することでログインが完了します。", "認証コードの通知方法はユーザー毎に設定する必要があり、未設定のユーザーはログインができなくなります。", and a "編集" button. Below this is a table with two rows:

アプリの2段階認証	利用しない
Buddycomコンソールの2段階認証	利用中

A red box highlights the second row, and a link "Buddycomコンソール2段階認証設定ユーザーの検索・編集" is visible next to it.

- (2) 確認したいユーザーのユーザーID、またはユーザー表示名を入力し、「検索する」を押下すると、該当するユーザーの設定状況を確認することができます。
- (3) ユーザーの設定を初期化したい場合は、「初期化」ボタンを押下します。設定が初期化されたユーザーは既存の設定でログインすることができなくなり、再度 2 段階認証の設定をする必要があります。

Buddycomコンソール2段階認証設定ユーザーの検索・編集				
ユーザーID	▼	admin	検索する	
ユーザーID/表示名	2段階認証の設定	テナント管理者	通知先メールアドレス	更新日時
admin / admin	Google Authenticator	○		2024-11-25 15:55:30 初期化

※テナント管理者の 2 段階認証設定は Buddycom コンソールから初期化することはできません。テナント管理者が 2 段階認証要因でログインできなくなった場合は購入元にお問い合わせください。

6 端末管理

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

端末管理を利用すると、Buddycom コンソールで承認した端末のみ Buddycom アプリにログインすることができます。

6.1 端末管理の利用設定

端末管理はデフォルトで「利用しない」設定になっているので、利用する場合は端末管理機能を有効にする必要があります。

(1) 端末管理の設定画面の「編集」をクリックします。



(2) 端末管理を ON にして「保存する」をクリックします。

端末管理に対応している Buddycom アプリのバージョンは、Android 24.081 以上、iOS 24.082 以上です。このバージョンより古いアプリは、端末管理を有効にするとログインできませんので、ご注意ください。



6.2 端末 ID の登録方法

- (1) Buddycom アプリのログイン画面にてユーザーID、パスワードまたはかんたんログインにてログインを行うと、下記の画面が表示されて端末 ID が発行されます。表示された端末 ID を管理者へ共有してください。管理者への共有が終わったら、「ログイン画面に戻る」をタップしてログイン画面に戻ってください。
Buddycom コンソールで承認されていない場合、画像②が表示されます。

画像①



画像②



- (2) Buddycom コンソールで共有された端末 ID を承認してください。(Buddycom アプリで端末IDが発行されると自動で Buddycom コンソールに登録され、承認待ち状態になります)

※端末 ID が承認される前に Buddycom アプリでログインした場合はログインできません。



- (3) 管理者の承認が終わると、Buddycom アプリにログインできるようになります。
端末 ID が承認されると、Buddycom コンソールから端末 ID を削除するか、Buddycom アプリをアンインストールしない限り、再登録の必要はありません。

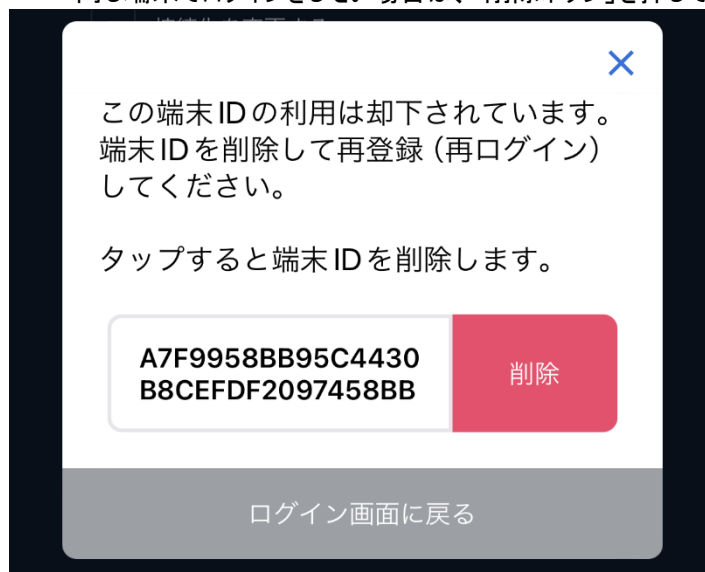
6.3 端末 ID の削除方法

意図していない端末 ID の承認依頼や、不要になった端末 ID を削除することでその端末からのログインを拒否することができます。

(1) Buddycom コンソールで削除したい端末 ID を検索し、「削除」をクリックします。



(2) 削除された端末 ID で Buddycom アプリへログインを行うと、下記のような画面が表示されてログインできません。同じ端末でログインをしたい場合は、「削除ボタン」を押して、端末 ID をリセットしてください。



※削除対象の端末 ID を使用してログインしていた場合は、強制ログアウトされます。

6.4 端末 ID の検索項目

検索項目	入力内容	説明
全て	–	全ての端末情報（未承認、承認済み）を表示します。
端末 ID	端末 ID (31 桁の英数字)	入力した端末 ID と一致する端末の情報を表示します。
承認ステータス	承認	ステータスが「承認」状態の端末を表示します。
	未承認	ステータスが「未承認」状態の端末を表示します。
使用状況	使用中	ユーザーがログイン済みの端末 ID が表示されます。
	未使用	ユーザーがログインしていない端末 ID が表示されます。

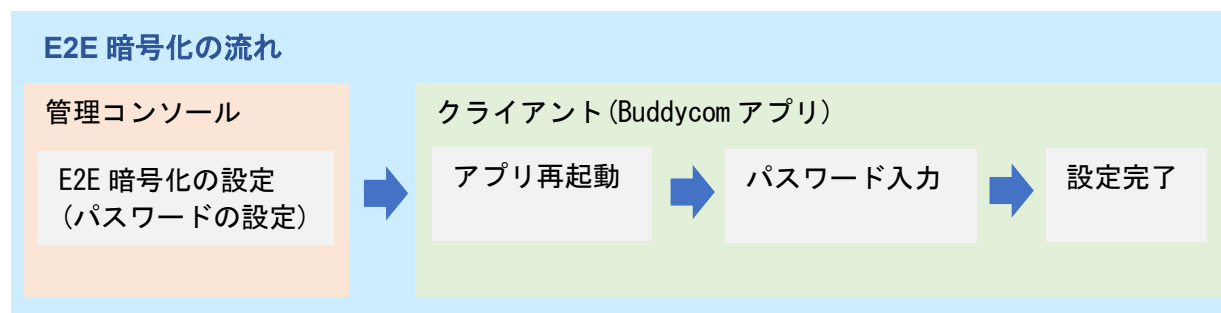
6.5 端末管理の注意事項

- ・ 端末 ID を登録している状態で、端末管理機能を OFF にした場合、Buddycom コンソールに登録されている全ての端末 ID は削除されます（強制ログアウトはされません）。
- ・ 端末管理を「利用する」にする前に、すでにログイン状態になっている端末は、端末管理を「利用する」に変更した後も登録されることなくログイン状態が維持されます。端末登録を行いたい場合は一度ログアウトしてから再度ログインしてください。

7 E2E 暗号化

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

暗号化した通信データの復号(再生/表示)が、通信を行ったグループ(ユーザー)間でのみできるようにするため、セキュリティを向上させることができます。



7.1 E2E 暗号化の設定

設定画面から「E2E 暗号化」を選択し、「編集」をクリックします。



「E2E 暗号化の設定」画面にて、「E2E 暗号化」をオンにし、パスワードを設定したら保存をします。※パスワードには半角の英大文字、英小文字、数字を含む 8 文字以上 50 文字以下の文字列を指定してください。

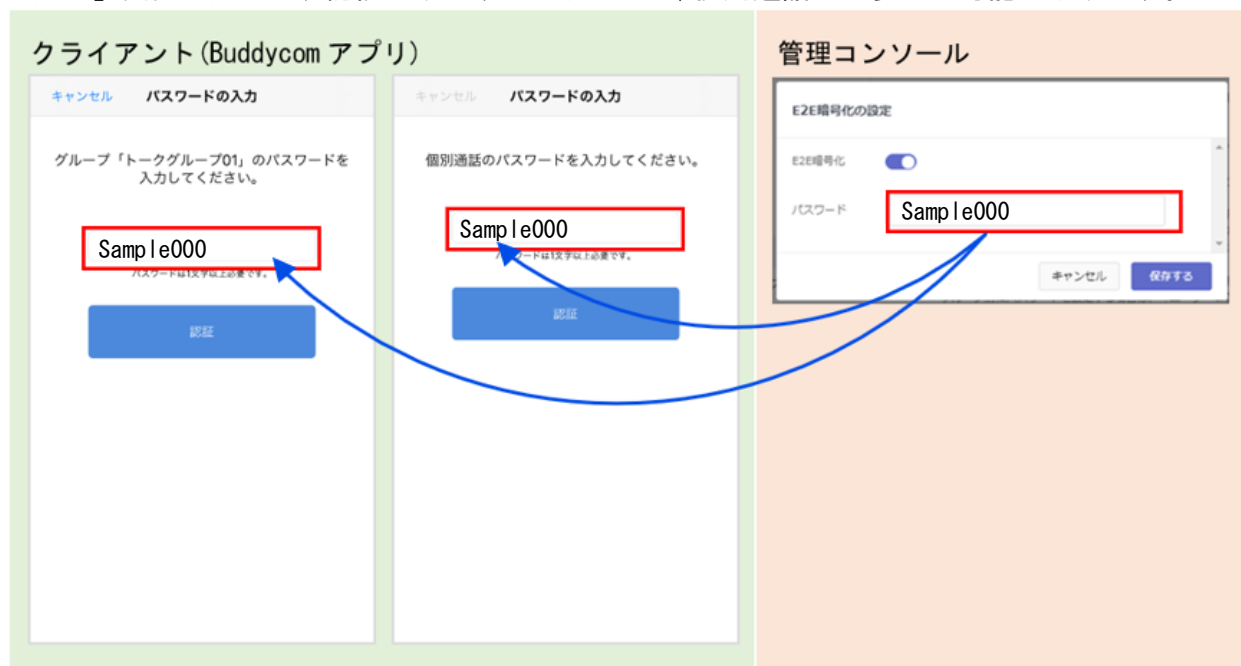


7.2 クライアント(Buddycom アプリ)のパスワード入力

E2E 暗号化の設定をオンにすると、テナント内の全てのグループ通話と個別通話の、通話データ、チャット、位置情報、ライブキャストに対して E2E 暗号化が有効になります。

E2E 暗号化の設定後に、所属している各グループと、個別通話用の認証パスワードの入力画面が Buddycom アプリに表示されます。

「E2E 暗号化の設定」画面にて設定を行ったパスワードを、アプリに表示された「パスワードの入力」画面に入力し、認証に成功するとグループ/個別通話への参加が可能になります。



例えば、ユーザーが2つのグループに参加していた場合は、パスワードの入力は3回(グループA、グループB、個別通話用)行います。

パスワードの認証に失敗すると下のような画面表示になり、グループ内で通話や履歴の確認などの操作ができなくなります。アプリの再起動、または通話先の選択画面で「保存」をすると再度「パスワードの入力」画面が表示されます。



※E2E 暗号化を有効にする際に Buddycom アプリを起動していた場合は、通話先に設定されているグループの認証パスワードの入力画面は自動で表示されません。

一度、Buddycom アプリを再起動するか、通話先の選択画面を開き設定を変更せずそのまま「保存」を押して TALK 画面に戻ると認証パスワードの入力画面が表示されます。

7.3 パスワードの変更

E2E 暗号化のパスワードの変更は 2 種類あります。

7.3.1 全グループ/個別通話のパスワード変更

テナント内の全てのグループと、個別通話用の E2E 暗号化のパスワードが変更されますので、パスワードの変更後に、ユーザーはアプリにて参加している全てのグループと個別通話用のパスワード入力が必要です。

設定画面から「E2E 暗号化」を選択し、「新しいパスワード」をクリックし、新しいパスワードを入力し保存します。



7.3.2 指定のグループのパスワード変更

任意のグループのみ E2E 暗号化のパスワードを変更します。

パスワードの変更後に、ユーザーはパスワードの変更を行ったグループのみアプリにてパスワードの入力が必要です。

ユーザー & グループ画面から、パスワードを変更したいグループを選択し、グループ情報の E2E 暗号化の「新しいパスワード」をクリックし、新しいパスワードを入力し保存します。



※指定のグループのパスワード変更後に、「E2E 暗号化の設定」画面にて、新しいパスワードを設定した際は、「E2E 暗号化の設定」画面のパスワードに上書きされます。

7.4 E2E 暗号化の制限事項/注意事項

・一部、利用できない機能があります。利用できない機能については「E2E 暗号化有効時の主な機能について」の表をご確認ください。

・アプリの対応バージョン

iOS 版アプリバージョン 2.0.25 以降、Android 版アプリバージョン 2.0.32 以降のアプリで強制起動に対応しています。それ以前のバージョンのアプリは強制起動できません。

E2E 暗号化有効時の主な機能について

機能	E2E 暗号化が有効時の利用	E2E 暗号化が有効時の履歴保存
音声通話	利用可能	保存なし
音声テキスト化	利用不可	—
翻訳	利用不可	—
ライブキャスト	利用可能	保存なし
テキスト(チャット)	利用可能	保存あり
画像	利用可能	保存あり
マップ通話	利用可能	保存なし
動態管理	利用不可	—

※音声テキスト化/翻訳機能と音声データ/ライブキャストの保存は、E2E 暗号化の設定を有効にした際にグループから強制的に外れます。

8 個別通話設定

個別通話に関する設定を変更することができます。

8.1 音声データの保存

個別通話の音声データを保存するかどうかを指定します。

音声テキスト化オプションを利用している場合、テキスト化されたデータも保存されます。

(1) 音声データ保存設定で「編集」をクリックします。



(2) 音声データを「保存する」または、「保存しない」を選択して保存します。



8.2 音声テキスト化・翻訳

個別通話時に使用されるテキスト化エンジンと、翻訳エンジンを変更することができます。

個別通話にてテキスト化・翻訳を利用するには、個別通話を行う双方のユーザーの「音声テキスト化」「翻訳」オプションがONになっている必要があります。
ユーザー情報は、管理コンソールの「ユーザー & グループ画面」にてご確認ください。

(1) 音声テキスト化・翻訳サービス設定で「編集」をクリックします。



(2) ご利用になるテキスト化エンジン・翻訳エンジンを選択して「OK」をクリックします。



8.2.1 個別通話の音声テキスト化・翻訳エンジンの変更の注意点

- ・個別通話のテキスト化・翻訳エンジンはユーザー毎に設定を変更できません。
テナント内のすべてのユーザー間で行われる個別通話で使用されるエンジンが一括で変更されます。
※グループ通話は、各グループに設定されたエンジンにて、テキスト化および翻訳されます。
- ・テキスト化のエンジンに「Google Speech To Text」が初期設定されている場合は、一度テキスト化をその他のエンジンに変更した際に、再び「Google Speech To Text」には設定ができません。
※翻訳エンジンでは変更後も「Google Translate」の設定が可能です。
- ・個別通話のテキスト化への、辞書の割り当てはできません。

8.3 自動終了時間設定

個別通話の自動終了時間を設定することができます。

「個別通話の自動終了時間」で設定した時間が経過すると通話を終了します。設定規定値は 60 秒です。

Buddycom アプリの通知設定で「自動終了通知」が ON になっている場合は音声で通知されます。

(1) 個別通話の自動終了時間(秒)で「編集」をクリックします。

(2) 自動終了時間を入力して「保存する」をクリックします。

※設定時間には 1 以上 3,600 以下の半角数字を指定してください。

個別通話の自動終了時間 (秒)

個別通話の自動終了時間
(秒)

60

キャンセル 保存する

9 ヘルプ設定

このセクションでは、Buddycom アプリで表示するヘルプページへのリンクの設定機能について説明します。

「独自のヘルプリンクの設定」を利用することで Buddycom アプリ利用者に見てもらいたい任意の Web コンテンツへのリンクをヘルプに追加できます。

9.1 ヘルプ設定の編集

設定画面から「ヘルプ設定」を開き、「編集」ボタンをクリックします。



9.1.1 「設定内容」について

項目	説明	初期値
Buddycom にヘルプを表示する	Buddycom アプリの設定画面に「ヘルプ」が表示されます。	有効



アプリの設定画面



9.1.2 「表示内容」について

項目	説明	初期値
Buddycom 公式のヘルプページを表示する	「有効」にすると、Buddycom アプリの「ヘルプ」メニューに Buddycom の FAQ サイトへのリンク (https://www.buddycom.net/faq/faq-buddycom.html) が「よくあるご質問」として追加されます。	有効
独自のヘルプリンクを表示する	「有効」にすると、ヘルプメニューに任意のコンテンツへの URL リンクを追加することができます。	無効
表示名	ヘルプに追加したいコンテンツの表示名を指定します。ここで指定された表示名が、Buddycom アプリのヘルプメニューに追加されます。	空欄
URL	表示名をタップしたときに遷移する URL を指定します。	空欄

ヘルプ設定の編集

Buddycomアプリケーションの設定画面に、ヘルプページへのリンクなどを表示する設定ができます。

設定内容 有効/無効

Buddycomにヘルプを表示する ☒

表示内容 有効/無効

Buddycom公式のヘルプページを表示する ☒

独自のヘルプリンクを表示する ☐

キャンセル 保存する

アプリのヘルプ画面

< 設定 ヘルプ

よくあるご質問

ヘルプ設定の編集

Buddycomアプリケーションの設定画面に、ヘルプページへのリンクなどを表示する設定ができます。

設定内容 有効/無効

Buddycomにヘルプを表示する ☒

表示内容 有効/無効

Buddycom公式のヘルプページを表示する ☒

独自のヘルプリンクを表示する ☒

表示名 sample

URL <https://www.buddycom.net/ja/manual.html>

キャンセル 保存する

アプリのヘルプ画面

< 設定 ヘルプ

よくあるご質問

sample

9.2 ヘルプ設定の制限事項/注意事項

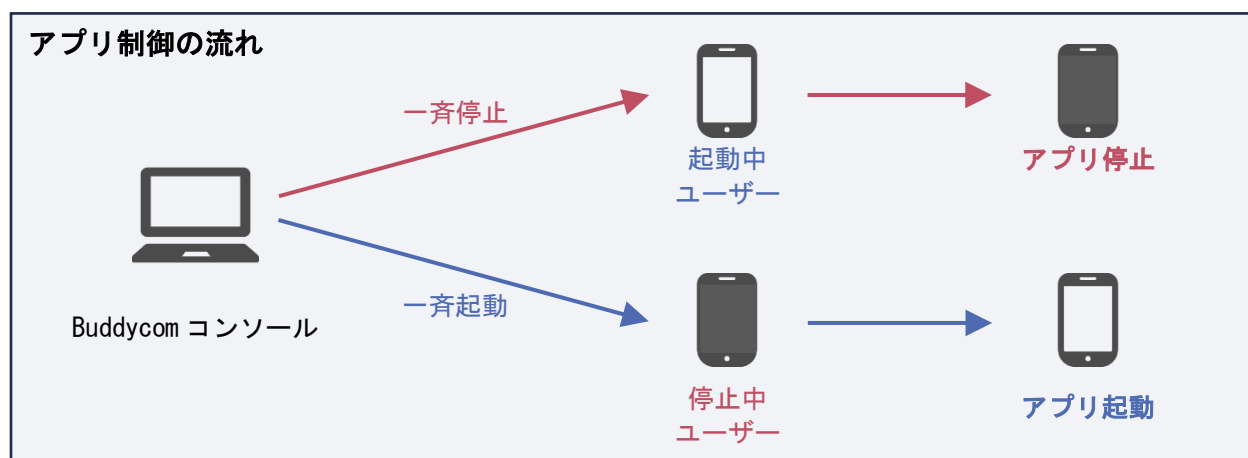
- ・ 設定から 最大で 15 分後に Buddycom アプリに反映されます。
- ・ 設定できる独自のヘルプリンクは1つだけです。
- ・ 独自のヘルプリンクに設定できるのは、http または、https で接続する web ページの URL (http:// または https://から始まるもの) だけです。

10 アプリ制御

※この機能は Android 版 Buddycom 24.120 以上のアプリのみに使用することができます。
24.120 未満の Android アプリ、iOS 版アプリに対しては使用することができません。

Android 端末を使用しているユーザーの Buddycom アプリを一齐停止/一齐起動することができます。本機能を利用して、ユーザーのアプリを強制的に再起動することができます。

制御することができるのは、ログイン済みのユーザーのみです。



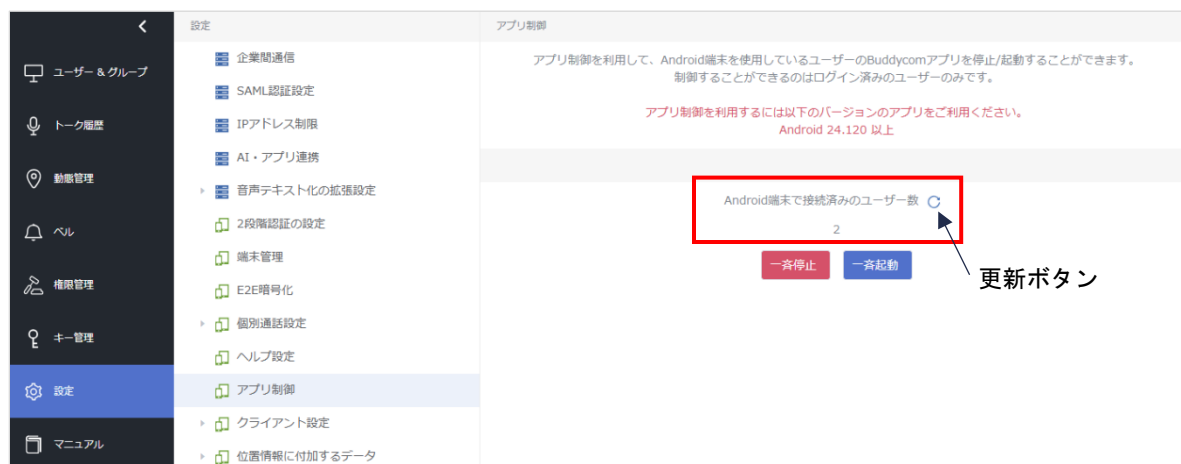
10.1 接続済みユーザー数の取得

テナント全体の Android 端末の接続済みユーザー数を確認することができます。

- (1) 「Android 端末で接続済みのユーザー数」の更新ボタンをクリックします。
- (2) Android 端末で使用しているユーザーのうち、オンライン（ログインしており、アプリを起動している）ユーザーの数が表示されます。

※「Android 端末で接続済みのユーザー数」には 24.120 未満のアプリユーザーも含まれます。

※「Android 端末で接続済みのユーザー数」の更新ボタンは 10 秒に 1 回クリックすることができます。



10.2 一斉停止

Android アプリのユーザーを一斉停止することができます。

※一斉停止できるのは、Android 版 Buddycom 24.120 以上のアプリユーザーのみです。

(1) 「Android 端末で接続済みのユーザー数」を確認します。

(2) 「一斉停止」ボタンを押下します。



(3) ポップアップが表示されるため、「はい」を押下します。



(4) Buddycom アプリで、「管理者がアプリを停止しました」という音声通知が鳴動し、Buddycom アプリが停止します。またこのとき「管理者からアプリ停止通知を受信しました」というプッシュ通知が表示されます。



※一斉停止は 60 秒に 1 回実行することができます。

10.3 一斉起動

Android アプリのユーザーを一斉起動することができます。

※一斉起動できるのは、Android 版 Buddycom 1.2.5 以上のアプリユーザーのみです。

- (1) 「Android 端末で接続済みのユーザー数」を確認します。
- (2) 「一斉起動」ボタンを押下します。



- (3) ポップアップが表示されるため、「はい」を押下します。



(4) Buddycom アプリで、アラート1のサウンドが鳴動し、Buddycom アプリが起動します。またこのとき「管理者からアプリ起動通知を受信しました」というプッシュ通知が表示されます。



※一斉起動は 60 秒に 1 回実行することができます。

※Google Play 非対応の Android 端末をご利用の場合は、強制起動されません。

※Android 端末のアプリ設定「他のアプリの上に重ねて表示」がオンである必要があります。

11 クライアント設定

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

全ユーザーのアプリ設定を一括管理することができます。クライアント設定は、任意の階層に割り当てて、その階層下のユーザーにだけ適用することができます。

11.1 クライアント設定の追加

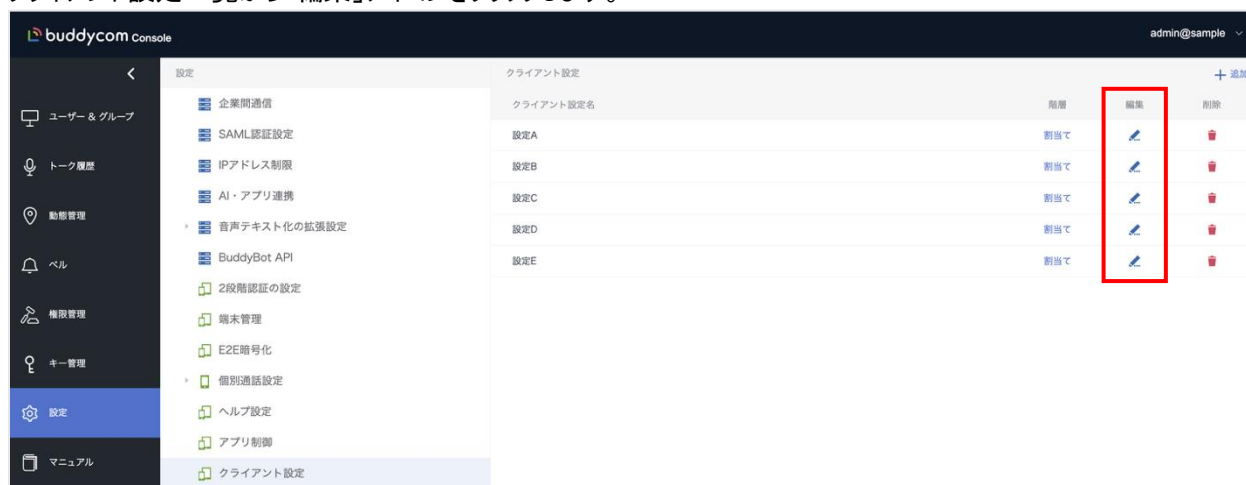
クライアント設定オプションを契約頂いた直後は、クライアント設定が作成されていません。「+追加」ボタンをクリックして、クライアント設定を作成してください。

クライアント設定は 1000 個まで作成可能です。

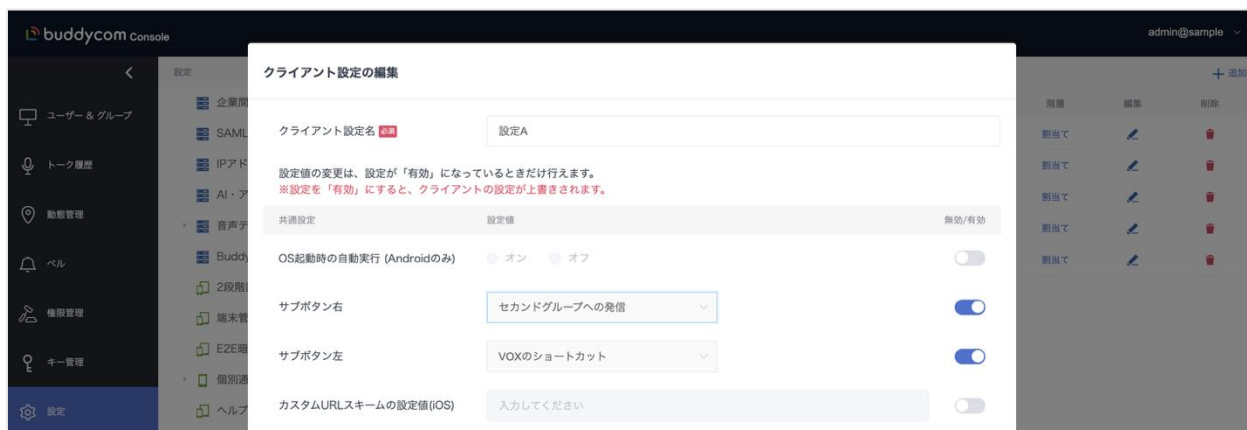


11.2 クライアント設定の内容確認・編集

クライアント設定一覧から「編集」アイコンをクリックします。



クライアント設定の編集画面にて、設定内容の確認が可能です。



編集可能な項目

右側の「有効/無効」スイッチをオンにし、設定値を変更した後に「保存」します。

有効の項目のみアプリに設定値が反映されます。

(無効の項目は、アプリ内で各ユーザーが自由に設定を変更することができます)

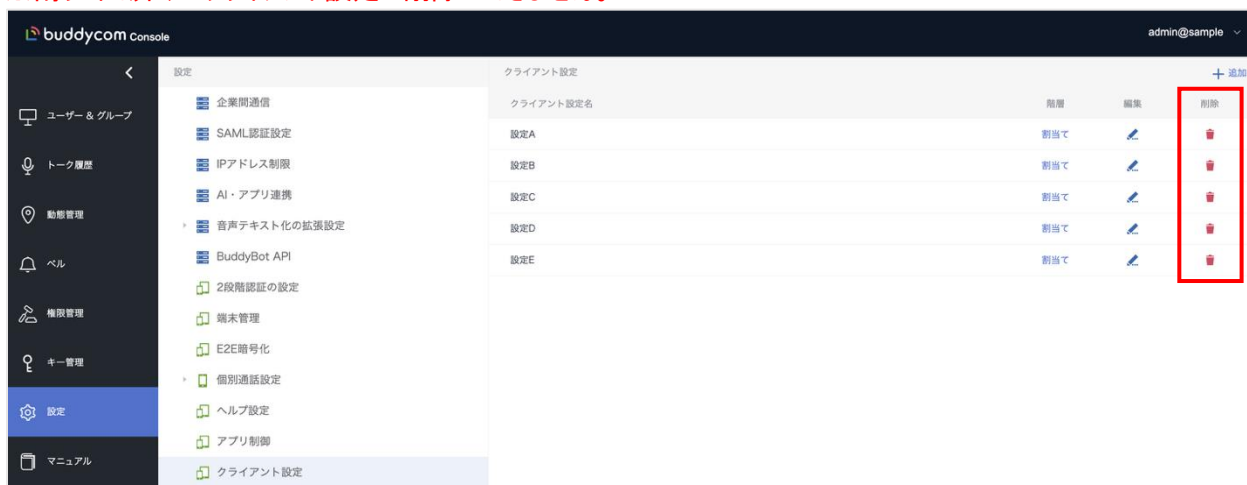
管理コンソールのクライアント設定は、アプリの再起動または、設定から 15 分後に自動で反映されます。

※クライアント設定の作成直後は、どこの階層にも割り当てられていないため、有効になっていません。新しくクライアント設定を作成した場合は、必ず割り当てを行ってください。クライアント設定の割り当て方法については、「11.4 クライアント設定の割り当て」をご確認ください。

11.3 クライアント設定の削除

(1)クライアント設定一覧から「削除」アイコンをクリックします。

※割り当て済みのクライアント設定の削除はできません。

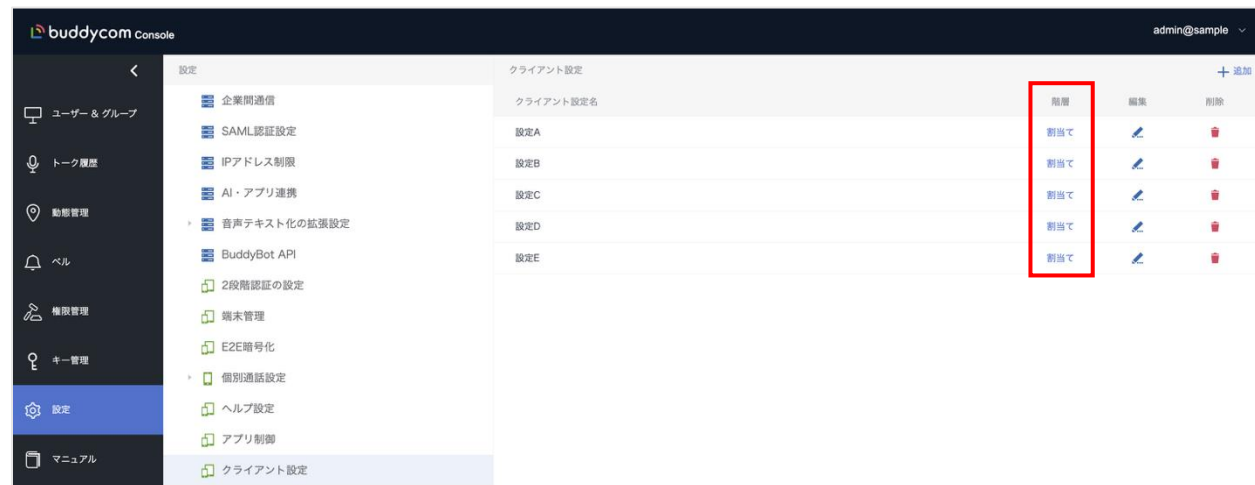


(2)ポップアップで「OK」を押下します。



11.4 クライアント設定の割当て

(1)クライアント設定一覧から「割当て」をクリックします。



(2)「一覧から選択」または「検索して選択」から追加・更新する階層を選択して、「保存する」をクリックします。

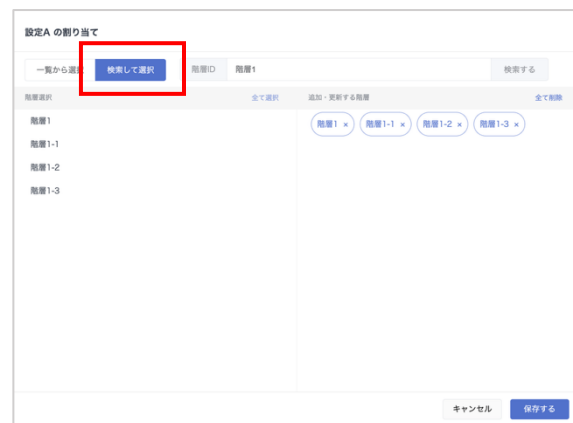
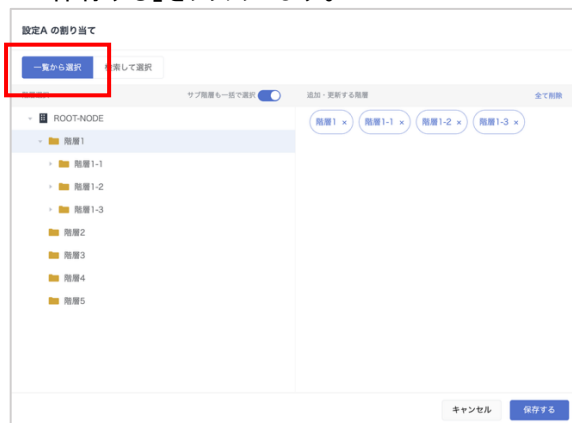


表 11-1 クライアント設定の操作権限一覧

操作		権限
設定内容の確認		権限不問※全ユーザー可能
割当て先の確認		ROOT-NODE 参照または編集権限
割当て	一覧から選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ ROOT-NODE 参照または編集権限 かつ ・ 割当て階層の編集権限 かつ ・ 上位階層の参照または編集権限
	検索して選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ ROOT-NODE 参照または編集権限 かつ ・ 割当て階層の編集権限
設定の作成・編集・削除		<ul style="list-style-type: none"> ・ テナント管理権限 かつ ・ ROOT-NODE 参照または編集権限

表 11-2 クライアント設定項目一覧

項目		設定値
共通設定		
OS 起動時の自動実行(Android のみ)		「オン」または「オフ」を選択します。
サブボタン右		以下のいずれかの値を選択します。 「使わない」「NFC」「カスタム URL スキーム」「VOX のショートカット」 「Face to talk のショートカット」「セカンドグループへの発信」「画面操作のロック(Android)」「メタデータリーダー」「定型文を送信」
サブボタン左		
カスタム URL スキームの設定値(iOS)		入力してください
カスタム URL スキームの設定値(Andrpod)	パッケージ名	入力してください
	クラス名	入力してください
バックグラウンドモード(iOS のみ)		「オン」または「オフ」を選択します。
画面をスリープにしない(Android のみ)		「オン」または「オフ」を選択します。
定型文タイトル(1～20)		定型文に設定するタイトルを指定します。
定型文(1～20)		アクションを選択して、設定をしてください。 アクションは 1 つの定型文に 5 つまで設定できます。
Wi-Fi/ モバイル 通 信 の 優 先 設 定 (Android)		「Wi-Fi を優先する」または「モバイル通信を優先する」を選択します、
Wi-Fi/モバイル通信の優先設定(iOS)		以下のいずれかの値を選択します。 「Wi-Fi を優先する」「モバイル通信を優先する」「Wi-Fi 不安定時にモバイル通信を使用する」

トーク設定	
画面ボタンの動作	「ボタンを押しながら通話」または「ボタンを押して通話開始/終了」を選択します。
外部ボタンの動作	
ミニトークボタンの動作	
Face to Talk を有効にする	「オン」または「オフ」を選択します。
エコモードを有効にする	
VOX を有効にする	
マイクスタンバイを有効にする (iOS のみ)	
iOS のマイクモードを利用する (iOS のみ)	
チャット設定	
翻訳結果の自動読み上げ	「オン」または「オフ」を選択します。
テキスト受信時の自動読み上げ	
読み上げ対象のグループ	「話すを設定しているグループ」または「話す/聞くを設定しているグループ」を選択します。
撮影時に送信確認画面を表示する (Android のみ)	「オン」または「オフ」を選択します。
ライブキャスト設定	
解像度とフレームレート	以下のいずれかの値を選択します。 「1280×720・15fps」「1280×720・30fps」「1920×1080・15fps」
マップ設定	
現在地の取得	「オン」または「オフ」を選択します。
位置情報の送信	
使用するマップコンポーネント(iOS のみ)	「AppleMap」または「GoogleMap」を選択します。
マップのタイプ	「ノーマル」または「衛星写真」を選択します。
位置情報の送信間隔	以下のいずれかの値を選択します。 「5 秒」「30 秒」「60 秒」「300 秒」
サウンドボリューム設定	
再接続時のアラート音のボリューム	0～100 の範囲で設定します。
音声のボリューム	0～200 の範囲で設定します。
電話中の音声のボリューム (Android のみ)	
マイクのボリューム	
操作音のボリューム	0～100 の範囲で設定します。

受信時のピープ音のボリューム	0～100 の範囲で設定します。
効果音のボリューム	0～100 の範囲で設定します。
強制起動時のアラーム音のボリューム	
エコモードのボリューム	
発話中のアラート音のボリューム	
「聞く」グループの音量調節	10%～100%の範囲で設定します。
ボリュームロックを無効にする	無効にする
マスターミュートを無効にする	無効にする
通知設定	
音声通知	「オン」または「オフ」を選択します。
フォアグラウンド時に通知を表示する	
音声受信時	
音声受信時の振動	
音声受信時の振動パターン	「パターン 1」～「パターン 4」のいずれかを選択します。
メッセージ受信時	「オン」または「オフ」を選択します。
メッセージ受信時の振動	
メッセージ受信時の振動パターン	「パターン 1」～「パターン 4」のいずれかを選択します。
Bluetooth アラート設定	
Bluetooth 切断時のアラート	「オン」または「オフ」を選択します。
アラートの終了時間	10～1000 の範囲で設定します。
アラートタイプ	以下のいずれかの値を選択します。 「サウンド: オン・オフ、バイブレーション: オン・オフ」
Bluetooth 機器のボタン割り当て設定※1	
ボタン 1	以下のいずれかの値を選択します。 「なし」「メイン通話」「ダイレクト応答」「セカンドグループへの発信」「定型ステータスの切替」「Buddycom AI に話しかける※2」「グループ切り替え(進む)」「グループ切り替え(戻る)」「定型文送信(定型文 1～20)」
ボタン 2	
ボタン 3	
ボタン 4	
ボタン 5	

※設定から 15 分後に Buddycom アプリに反映されます。

「OS 起動時の自動実行」を変更した際は、変更反映後に Buddycom アプリを再起動してください。

※クライアント設定の編集を行ったテナントのユーザーは Buddycom アプリの設定画面にて、当該設定の変更ができなくなります。(Android 版は設定画面にて設定の変更を行っても、変更が

反映されず、クライアント設定が適用されます。)

※1 Bluetooth 機器のボタン割り当て設定は、iOS 版 Buddycom25.010、Android 版 Buddycom25.011 以降のアプリにのみ反映されます。該当未満のアプリを利用中のユーザーには反映されません。

※2 「Buddycom AI に話しかける」は Buddycom AI をご契約中のテナントのみで表示されます。